

2020 年 12 月 4 日

関係者各位

公益財団法人 日本ライフセービング協会
ライフセービングスポーツ本部 宮部周作

2021 年度 競技会運営方針について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より日本ライフセービング協会（JLA）の諸事業に対しまして多大なるご理解とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

JLA は新型コロナウイルスの感染状況及び社会情勢を踏まえて、2020 年度における 10 月末までの全ての競技会を中止しました。国内における感染状況は依然として予断を許さない状況が続いており、JLA の活動においても、感染予防策を始めとして今までに無い取り組みが求められています。

そのような状況においてもライフセービングスポーツ本部では、中長期的なライフセーバーの育成を進めるべく 2021 年度の競技会については「実施」の方向で検討を進めています。様々な逆風の中ではありますが、将来の発展を見据えた競技会のあり方について、これまでの流れを汲んだ上で踏み込んだ変更を含めてご提示します。

敬具

記

ライフセービングスポーツの役割

ライフセービングスポーツの役割を引き続き、以下の 3 点とする。

- ライフセーバーに求められる救助に必要な技術や体力の向上を目的とすること。
- 誰でもライフセービングを始められる活動への入口と位置付けること。
- スポーツの魅力を活用してライフセービングを広く社会へ認知させること。

各競技会の方針について

【全日本プール選手権】

- ILS 承認を引き続き取得し、世界記録の申請が認められる競技会とする。
- 国際化を進め、海外からの選手を受け入れる。（オープン参加とはしない）
- 将来的にアジア太平洋チャンピオンシップの同時開催を目指す。
- 個人 2 種目限定の出場制限を設けず、タフな選手が育つ環境を用意する。
- 一部の種目において、タイム決勝ではなく予選と決勝を行う。
- SERC に関しては世界基準での開催と、多くの選手に出場いただくことを目指し、全日本プー

ルではこれを行わず、別日程での単独開催を目指す。

【種目別選手権】

- 国際化を進め、海外からの選手を受け入れる。(オープン参加とはしない)
- 将来的にアジア太平洋チャンピオンシップの同時開催を目指す。
- 2021年においては、開催が予定されているワールドマスターズゲームス2021 関西(2022年に延期)のプレイベントと位置付ける。

【ジュニア・ユース・マスターズ選手権】

- 2020年度に引き続き、ビーチ種目とサーフ種目、プール種目のカテゴリーに分けて実施する。
- ジュニア・ユース選手権大会とマスターズ選手権大会の同時開催を実施する。
- チーム総合力の向上を図るために、3大会におけるポイントを合算した総合表彰を実施する。
- ビーチ種目とサーフ種目において、中学生は高校生の種目に出場できるものとする。

【全日本選手権(予選会)】

- 予選会は、地方ブロックごとの自主開催を進めていく。
- 予選会の名称には、地方ブロックの名称を反映させる。
- 予選会は、地方ブロックを組織する都道府県協会が主催する。
- 本戦1ヶ月前までに本戦出場選手名簿をJLAに提出する。2021年度は9月20日(月)予定。
- 予選会は、JLAの定めるA種認定競技会を取得した実施が望ましい。ただし、体制が整わない場合には公平な選出が実施できればよいものとし、予選会の形にはこだわらない。

【全日本選手権(本戦)】

- 国内最高峰の競技会と位置づけ、予選会で厳選された選手だけが出場できるものとする。
- 観客など競技会を観る人たちにとって、魅力のある運営を仕掛けていく。
- 本戦は、JLAが主催する。

シリーズ化について

- プール競技、オーシャン競技、SERCの3つの競技を基本として、カテゴリ別のシーズン総合順位をつけ表彰する。また一人当たりのポイント数や昨年からの上昇率などのスタッツを開示し、モチベーション向上につなげる。
- 2~3月をめどに「ライフセービングスポーツフォーラム(仮称)」を開催し、その場で年間総合表彰を実施する。
- 全日本種目別選手権はシリーズ化の対象としない。海外選手やライフセービングスポーツに興味のある方が参加のしやすい、開かれた競技会とする。
- シリーズ化に伴い、第1種、第2種、第5種及び第6種加盟クラブが活躍する全日本シリーズと、第3種及び第4種加盟クラブが活躍する全日本学生シリーズへと競技会を整理する。両

方のクラブ形態に活躍の場を作ることで、それぞれの発展を後押しする。

カテゴリ	プール	オーシャン	SERC	総合表彰
全日本シリーズ ・オープン	全日本プール	全日本	全日本 SERC	
全日本学生シリーズ ・大学生、専門学生等	全日本学生 プール	全日本学生	全日本学生 SERC	
JYM シリーズ ・ジュニア (小学生) ・ユース (中学生) ・ユース (高校生) ・マスターズ	JYM プール	JYM ビーチ JYM サーフ	(該当なし)	   ---

各競技会における対象区分と資格要件について

2020 年度に引き続き、変更なし。以下の通りとする。

競技会名称	対象区分	資格要件
全日本選手権	高校生以上 ※中学生条件付き	ベーシックサーフ LS (高校生 : WS&BLS) (中学生 : WS)
全日本プール選手権	中学生以上	プール LG、またはベーシックサーフ LS (高校生 : WS&BLS) (中学生 : WS)
全日本学生選手権	大学生、短大生、 専門学校生のみ	ベーシックサーフ LS
全日本学生プール選手権	大学生、短大生、 専門学校生のみ	プール LG、またはベーシックサーフ LS
全日本ジュニア・ユース・マスターズ (ビーチ・サーフ・プール)	ジュニア : 小学生 ユース : 中学・高校生 マスターズ : 30 歳以上	なし (推奨)
種目別選手権	高校生以上 ※中学生条件付き	なし (推奨)
オーシャンサーフチャレンジ	高校生以上 ※中学生条件付き	なし (推奨)

競技会名称	対象区分	資格要件
全日本・全日本学生 SERC	高校生以上	プールLG、またはベーシックサーフLS (高校生：WS&BLS) (中学生：WS)
認定競技会	競技会によって	主催者判断
その他の競技会	競技会によって	主催者判断

競技会でのBLS アセスメントについて

2020 年度に引き続き、変更なし。以下の通りとする。

- 評価結果を「競技」の総合結果には含まない。
- 競技会登録選手からの無作為抽出ではなく、BLS に自信のある選手にエントリーして頂き、表彰を行うことで、より質の高いBLS を目指す。

中学生の全日本選手権および種目別選手権への参加について

国内において中学生が参加できる競技会はまだまだ少ない。それを補うために特別な条件のもとに全日本および種目別への参加を認めることにより、才能ある中学生に挑戦の場を増やし、その成長のための環境を整えることを実施していく。

しかしながら大人に混じって競技に参加することは、体格に勝る大人とのコンタクトによる怪我や様々リスクが考えられる。そのため中学生のだれもが気軽に参加すべきではなく、サーフライフセービングインストラクター資格を所持するユース指導責任者（以下、ユース責任者）、その保護者、そして本人が、本人の力量を見極めた上で覚悟を持って参加するべきである。

さらには体格差、技術、体力、怪我の可能性などに少しでも不安がある場合、勇気を持って参加をとりやめるべきである。

上記の考えのもと、以下の条件において全日本および種目別への参加を認めるものとする。

【参加条件】

- ユース責任者と保護者は、参加する全てのレースに立ち会えること。
- 中学生が参加できる種目は当面、体への負担の大きいサーフスキーを使用する種目やコンタクトの多いビーチフラッグスを除く。サーフレース等のスイム関連種目については、ジュニア・ユース・マスターズ選手権大会のサーフレース高校生の部において8位入賞したもののみ出場を可能とする。(競技会エントリー時点では8位入賞した実績を持っている必要はないが、8位入賞できなかったために競技会参加資格が得られなくてもエントリー費の返金はされない。)
- 本人の参加が、競技会進行を妨げないこと。
- 全日本ユース選手権の高校生の部で入賞を目指せる実力を持つこと。
- 競技会主催者には、主観的な判断で中学生の参加を止める権限があり、その判断に対する抗議は受け付けない。また、いかなる理由においてもエントリー費の返却はしない。

【参加方法】

- 競技会会場で立ち会うユース責任者と保護者が、参加する本人の体格・技術・体力・精神面および海のコンディションをレース毎に確認し、話し合い、参加の是非の判断を自身の責任において行う。
- その際ユース責任者は、ライフセーバーとして、またサーフライフセービング・インストラクター資格保持者として、慎重な判断を行う。
- ユース責任者と保護者の両名が免責条項を含む特別同意書へサインし、両名同席の上でこれを競技会実行委員会へ提出すること。（詳細は各競技会要項を確認）

以上

公益財団法人 日本ライフセービング協会
ライフセービングスポーツ本部
info@jla.gr.jp



水辺の事故ゼロをめざして
日本ライフセービング協会